

六本木三丁目東地区

「まちづくりビジョン」

六本木三丁目東地区まちづくり協議会

六本木三丁目東地区まちづくり協議会

「まちづくりビジョン」の考え方

■基本理念

都市機能と調和しながら人と環境を尊重したまちづくり

私たちが暮らす六本木三丁目東地区を取り巻く状況は、時代とともにめまぐるしく変化を続けております。その中で私たちは、私たちの生活を将来にわたって守りたいという気持ちと、一方において周りの変化にあわせて柔軟に対応したまちづくりもしていきたいという気持ちとを、持ち合わせています。

この2つの気持ちに応えるまちづくりを進める為には、このまち及び周辺地域を構成する都市機能と調和しながら、このまちに、居住する人、勤務・営業する人、地権を持つ人、すなわち「このまちで生活する」全ての【人】の要望をかなえるまちづくりを考えること、ならびに「人」が安全・安心・安定して生活するために必要な【環境】も備えたまちづくりを考えることが、欠かせない基本だと考えております。

そして常にまちの問題点が解消・改善され、将来にわたって【人】と【環境】が尊重されるまちでありたい、と私たちは望んでいます。

この「**私たちのもっとも基本的で共通した将来にわたるまちづくりの気持ち**」を端的に表現したのが上記の「**基本理念**」です。

私たちは、私たちのまちづくりを、この「**基本理念**」の下に、次の7つの「**まちづくりビジョン**」をもって進めていきたいと考えます

■まちづくりビジョン

1. 住民が仲良く安心して暮らせるまちづくり
2. 地区住民の生活利便性の向上を目指すまちづくり
3. 坂道などの特長を活かした誇りのもてる景観づくり
4. 快適な道路・交通体系のあるまちづくり
5. 災害・犯罪に強いまちづくり
6. 住民にやさしいみどり豊かなまちづくり
7. 周辺のまちづくり先行地区と連担し、
地域の魅力を高める「受け皿」となるまちづくり

1. 住民が仲良く安心して暮らせるまちづくり

- 以前からこの地区に住んでいる人、新しくこの地にこられた方等、色々な人がいて、そこには様々な生活スタイルが混在している、これが私たちのまちの特徴です。このような中で誰もがお互いに理解しあい、協力し合って仲良く暮らしていけるまちであることが、私たちの共通の願いです。
- また、私たちの周りに存在する多くの生活への障害（即ちバリア）を排除し、安心して暮らせる「バリアフリー」なまちづくりを進めていきたいと考えています。

<ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）>

(1) 誰もが仲良く安心して暮らせるまちづくりを目指す

このまちは、以前から代々この地に暮らす住民と、都市の拡大に伴って新しく暮らし始めた住民とが混在するまちです。特に最近では、大小の開発が各所で進んだことで居住人口及び就業人口は増加傾向にあり、外国人を含めてさまざまな生活スタイルを持った方々が暮らすまちとなっています。

このことから、両者が仲良く安心して暮らせるまちづくりの実現を目指します。

(2) 全ての住民のために地域と行政が協力してバリアフリーを目指す

地区住民の誰もが暮らしやすいまちとなるように、以下の掲げる取組みをはじめとして、まちのバリアフリー化を目指します。

① 坂道を安全・快適に歩ける仕掛け

まちの大きな特徴である坂道では、一部勾配がきついところもあり、高齢者やハンディキャップのある方などの交通弱者には歩きづらい、特に雨の日は滑りやすくなる、などの問題があります。

路面を滑りにくい舗装とする、勾配がゆるくなるよう改良をする、坂の途中でちよっと休憩できる空間を確保する、など、坂道を安全、快適に歩ける仕掛けづくりを検討します。

② 多くの方が利用する建物をより利用しやすくするきめ細やかな対応

地下鉄駅や商店、事務所など、様々な方が多数利用する施設については、東京都のバリアフリー基準などを参考としながら、誰もが利用しやすくなる決め細やかな対応が施されるよう、改善に向けた指摘・提案を行います。

③ 誰もが分かりやすいサインなどによる誘導

施設案内や標識・案内板などまちなかのサインについては、まち独自の特徴のある統一のデザインや外国人も含め誰もが分かりやすい表示とするなど、まちなかをスムーズに誘導できる仕組みを検討します。

2. 地区住民の生活利便性の向上を目指すまちづくり

- 私たちの日常の生活をより便利にするためのまちづくりが、私たちの共通の願いです。
- 生活利便性を向上するため、私たちが望んでいるまちに不足する施設の導入も積極的に図ります。

<ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）>

（1）まちに不足する利便施設の導入を図る

「六本木」は、東京でも有数の繁華街として発展してきたまちといわれますが、私たち地区住民の日常生活に必要な施設は必ずしも充実していない、ということが私たちの共通した感想です。

私たちの生活をより便利にするために、下記のようなまちに不足する施設を色々な機会をとらえて地区内に導入できるよう積極的に図っていききたいと考えています。

① 公民館などの集会施設

まちの様々な集まりや活動などに身近に利用できる集会施設が六本木三丁目内にはないため、ぜひ導入を実現したい、と願っています。

② 日常生活に必要な買い回りのための商業施設

スーパーマーケットなどの日々の買い物に利用できる施設が近隣に少ないため、これを改善したい、と願っています。

③ 防災倉庫などの防災施設

災害に強いまちづくりでも触れるとおり、災害時に必要な備品物資を蓄える施設が地区内にないことから、これを導入してまちの防災対策を強化したい、と願っています。

（2）親しみのある街並みを考える

このまちを親しみのある街並みにしたいというのが地区住民の願いです。そんな研究・話し合う場を積極的に提案していききたいと思っています。

3. 坂道などの特長を活かした誇りの持てる景観づくり

- この地区に残された特徴ある風景や街並みをみんなで認識しあい、皆で活かしあって、誇りが持てるこの地区独特の景観づくりを進めていきたいというのが、私たちの共通の願いです。
- このまちの大きな特長の一つである坂道については、私たちのまちの重要なシンボル空間としてふさわしい景観をみんなで作り上げていきたいと思っています。
- また、まちの美観維持も多くの方が関心をもっていますので、まちの美観を損ねる要素をできる限り排除する仕掛けを考えていきます。

＜ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）＞

（1）まちの中で大切にしたい風景や街並みを探り、認識しあう

私たちの暮らすまちで、大切にしたい風景や街並みは何かを、地区住民がともに探り、これをみんなで共通に認識できるように取り組みます。

（2）坂道をまちのシンボル空間にしていく

私たちの街の大きな特徴のひとつに多くの坂の存在があり、坂を通じて私たちの日常生活が営まれている、といえます。どの坂の名前の由来にも歴史があり、まちの重要なシンボル空間として、私たちは親しみを持って生活しています。

まちの誇りとなるような景観づくりを、坂道を中心として作り出すことを考えたいと思っています。

また、隣接の再開発には、豊かなオープンスペースの創出などによる沿道景観の大きな改善が期待されており、協働して景観づくりできるよう調整していきたい、と思っています。

（3）みんなで協力してまちの美観を維持できるシステムをつくる

まちが清潔で常に美しい環境が保たれていることを、地区住民の誰もが求めています。

私たちのまちでは、自治会などの活動により一定のまちの美観を保つ努力が続けられていますが、来街者・通行者が多いことや地域のコミュニティが一部では十分でないこともあり、ゴミの散乱やなどの問題が存在しております。

また、電柱が林立していることや一部の看板・広告物などが、まちの景観を損ねる要素になっていることも多くの方が指摘しています。

まちの美観を、今以上に維持・改善するため、これらの問題を解決するシステムづくりにみんなで取り組んでいきたい、と思っています。

4. 快適な道路・交通体系のあるまちづくり

○「車両と歩行者が互いに快適に利用できる道路づくり・交通システムづくり」が、私たちの共通の願いです。

○通過交通量が多いうえに、道が狭いため十分な歩道が確保できない、などの問題を抱えており、この交通環境の改善を速やかに図っていききたいと地区住民は願っています。

<ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）>

（1） 道路機能を強化して、円滑な車両交通を実現する

私たちのまちは、東京の広域交通の幹線道路である「六本木通り」と「環境1号線」にはさまれた場所に位置し、その地区内の道路は幹線道路の通り抜け道路として多くの車両に利用されその傾向は増加しつつあります。また、隣接する近隣地区での再開発が進むと、その利用車両は更に増加すると思われまます。

しかしながら地域内道路の現状は、車両交通量に見合った車道幅確保、車道と歩道の分離など基盤整備・安全性の確保、ならびに車両の流れをよくする交通システムの構築、は大変遅れていますので、これらの早急な改善が地区住民の長年の願いです。具体的には次のような点の改善が望まれます。

①道路の拡幅による歩車分離と最低限必要な歩道の幅を確保

地区内道路には、隣接の再開発の影響も含めた将来の交通量を見据え、車両交通の処理と安全な歩道の確保に最低限必要な道路の拡幅が必要です。

各道路に必要な拡幅整備、また、将来交通を踏まえた適切な歩道、車道の幅員構成を、隣接の再開発による都市基盤整備にも大きな期待が寄せられていることを踏まえながら、行政も含めた協働のもと速やかな実現を目指します。

特に市兵衛町通りとなだれ坂の交差点については、道が狭く見通しが悪い、坂が急勾配で危険、右折車両の滞留が著しいなど多くの問題が指摘されていますので、適切な交差点の改良をみんなで考えていきたいと思ひます。

②道路整備に伴う交通規制のあり方の検討

現在の一方通行などの交通規制は、まちへの通過車両の流入を抑制する効果がありますが、一方では私たちの交通利便性を妨げていることも指摘されます。

将来の交通規制については、道路拡幅などの整備とあわせて、地区住民の生活環境を守るために然るべきあり方についても、関係機関等とともに協働していききたいと考えています。

(2) 歩く人に優しい安全な歩行者空間をつくり出す

歩行者の交通環境は、危険要素が多く、また、快適に歩ける仕掛けも乏しいのが現状です。バリアフリーなまちづくり並びに魅力あるまちの景観づくりとあわせ、「まちを歩く人に対して優しい安全な歩行者空間づくり」の実現を目指します。

①快適に歩ける仕掛けづくり

歩行者がより快適に楽しく歩くことが出来るまちとするために、休憩できるベンチやストリートファニチャーの設置や、沿道に連続する緑の充実など、魅力的な歩行者空間の形成を図ることを検討していきます。

②歩行者に配慮した沿道空間形成づくり

歩行者に配慮した沿道空間形成について、隣接の再開発とも協働し、景観向上に大いに寄与する魅力的な空間づくりを検討していきたい、と考えています。

③地下を利用した連絡動線の検討

高低差の激しいまちをできるだけ楽に移動できるよう、また、最寄り駅の六本木1丁目駅へのスムーズなアプローチの確保も視野に入れて、地下を利用した通路及び地上との連絡エレベータの新設など、隣接の再開発とも協働し調整していきたい、と考えています。

5. 「災害・犯罪に強いまちづくり」

○私たちのまちでは、高低差の激しい地形でがけ地が多いことへの不安をはじめ、まちの中に避難場所がない、災害時に避難ができなくなるのではないかと、等まちの防災性に対する不安要素を指摘する声が少なくありません。これらの地域の実情を重視して、災害に強いまちづくりを進めることが、私たちの共通の願いです。

○また、多種多様な来街者が行き交うまちである特性に鑑み、「防犯性の強化推進による犯罪に強いまちづくり」を目指します。

＜ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）＞

（１） がけ地の危険度を把握し、危険箇所の改善策を行政とともに探る

高低差の激しい地形でがけ地（擁壁、法面）が多いことが特徴であり、地震などの災害に対するがけ崩れの不安が多く指摘されています。

がけ地の防災性強化については、個々の地権者だけで取れる対策ではないことから、行政と十分連携を図りながら、早期の改善策の実施を目指して検討を進めたいと考えます。

（２） 行き止まり道路の解消など、地震時の避難ルートの確保を検討する

また、全ての地区住民にとって、地震などの際の避難ルートは、できるだけ多く確保されることが望まれます。

災害時に問題を生じる恐れのある行き止まりなどの道路の解消と、道路の強化以外に、例えば敷地内を連絡して通り抜けられる通路を確保するなど有効な避難ルートの確保について、対策を検討したい、と考えています。

（３） 地区内に一時避難ができる空地などの確保を検討する

災害直後などに一時的に避難・安全確保できる場所を地区内に確保する要望が多くあげられています。しかし、現状では、十分な空地等はありません。

行政、隣接する再開発とも協働し、互いに理解を深めながら、避難に有効な空地などの確保について検討したい、と考えています。

（４） 人目につかない死角の排除や夜間の安全確保などの防犯対策を検討する

死角の排除や防犯カメラ等による犯罪監視システムの導入などを、行政等とも連携して検討し、防犯性を高めるまちづくりを進めていきたい、と考えています。

6. 「住民にやさしいみどり豊かなまちづくり」

○まちの中で季節を感じ、まちの表情を豊かにする樹木などみどりを増やし、うるおいと安らぎを感じる快適な景観を形成することが、私たちの共通の願いです。

○私たちは、道路などの公共施設空間の充実、隣接する近隣の再開発敷地内のオープンスペースの設置などの機会を通じ、協働してみどりの多いまちづくりを目指します。

<ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）>

（１） みどり豊かなまち全体のみどりの量を増やしていく

道路などの公共空間や、敷地内のオープンスペース、建物に至るまで、積極的な緑化を推進し、潤いと安らぎを与える快適な景観の形成を図ります。

また、まちの緑化を積極的に図ることは、木陰の創出やヒートアイランド現象の抑制など、生活環境の向上にもつながるとともに、建物（プライベート）と道路など公共空間を緩やかにつなぐ緩衝機能の役目も果たします。

（２） 道路整備と併せて魅力的な街並みを形成する街路樹などを求めていく

まちの内外に連続する豊かなみどりのネットワークを創出する魅力的な街並みづくりを目指して、地区内道路の拡幅などの整備にあわせて、街路樹などのみどりづくりを目指します。

（３） 大規模な建物には周辺への影響にきめ細かい配慮を求める

大規模な建物がまちの自然環境に与える影響は少なくありません。

都市の需要にあわせて今後さらに土地の高度利用が求められる六本木エリアにおいて地区住民の生活環境の保全を図るべく、大規模な建物に対しては周辺への影響にきめ細かく配慮してもらうことを、あらゆる機会を捉え調整していきたいと考えます。

①ビル風の抑制

高層建物などに風が当たり、地上レベルへ風が吹き降ろす影響が生じる「ビル風」をできる限り発生しないよう、然るべき抑制策を求めていきます。

②温暖化対策

建物が排出熱などをできる限り抑制することにあわせ、敷地内の積極的な緑化を図ることで、都心の温暖化を提言する対策を求めていきます。

③建物の圧迫感への配慮

大規模な建物が近接することにより、周辺に対して視覚的、心理的な圧迫感を与えられますので、できる限り建物間の距離をとる計画などの対策を求めます。

7. 周辺のまちづくり先行地区と連担し、 地域の魅力を高める「受け皿」となるまちづくり

○私たちのまちの周辺では、再開発などによる大規模なまちづくりが進行しています。主な地区としては、既に完成して稼働している地区（六本木ヒルズ、東京ミッドタウン、泉ガーデン、アークヒルズなど）、現在工事中の地区（六本木三丁目再開発）、そして現在検討が進められている地区（六本木三丁目東地区他など）があります。

○これらの先行地区が稼働しますと、各々の持つ特色ある役割が明らかになると共に、不足している機能も明らかになってくると思われます。その結果これらの「先行地区に囲まれた地区」となる私たちのまちに、諸々の役割が期待されてくるであろうと思われます。

○周辺の先行地区をつなぎ合わせて六本木・赤坂エリアのまちの機能を相乗的に高める役割、また先行地区にない新しい都市機能をわたしたちのまちが導入して六本木・赤坂エリアの地域全体の魅力を高める役割、等々を担う、すなわち「受け皿となるまちづくり」についてもみんなで研究していきたいと考えています。

<ビジョン実現に向けて協議された内容（方策案）>

（1） 周辺のまちづくり先行地区をつなぐ役割を果たす

まちづくりは、各地区のみで完結するものではなく、それぞれの地区がつながることが重要です。さまざまな地区が有機的につながることで、六本木・赤坂エリア全体の魅力が向上すると思われます。

まちづくり先行地区に囲まれた中心に位置する私たちのまちでは、これらの地区をつなぎ合わせる以下の重要な役割を担うことを検討したい、と考えます。

① まちの回遊性を高める歩行者ネットワーク形成への貢献

港区まちづくりマスタープランにある「快適な歩行者空間の形成」などを考慮した、周辺とスムーズにつながり、まちの回遊性を高める歩行者ネットワークの形成に貢献するまちづくりを目指ます。

② みどりなどの魅力的な街並みの連続

みどりなどで連続する魅力的な街並みを周辺へもつなげていく工夫を考えます。

③ まちのコミュニティのつながり

まちづくりを通じて醸成する私たちのまちのコミュニティが、周辺のまちとも連携・協働したコミュニティに広がっていくことを目指ます。

（2） まちづくり先行地区にない都市機能の導入を検討する

周辺のまちづくり先行地区が稼働した後、さらに求められる機能、先行地区で導入できなかった機能を、私たちのまちが導入して魅力ある地域形成に貢献できるまちづくりについても研究していきたいと考えています。